

日本百街道紀行

街道とまちづくり

第50回

山陽道・萩往還

1300年の史都・防府 二つの街道が交差するまち

毛利家 三田尻宰判代官・防府市長(山口県) 池田

豊



はじめに

防府市は、山口県中部の瀬戸内海沿岸に位置し、「防府」の地名は古代「周防国」の役所である「国府」が置かれた事に由来している。防府には、周防国分寺や周防国一宮の玉祖神社もあり、周防国の中心地であった。

中世には源平の合戦で焼失した東大寺再建のための材を出す地となり、再建の指揮を執った大勧進俊乗房重源上人が東大寺別院阿弥陀寺を創建した。本年は、重源上人の生誕900年に当たる。近世には市南部の三田尻をはじめとする干拓地に広大な塩田が築かれ、赤穂に次ぐ生産量を誇った。廃止後の跡地は工業地帯として、今日も防府の産業の中心地となっている。

街道と防府

市内には、古代から近世にかけ

また、旧藩主毛利家との縁が深い地でもあり、大正5年に建てられた邸宅と庭園(旧毛利家本邸・毛利氏庭園)は、旧大名家の威光を示す存在となっている。本年は毛利家の礎を築いた毛利元就の後450年、幕末激動期の藩主毛利敬親の没後150年の節目の年に当たる。かつて、三田尻は水軍の根拠地が置かれ、毛利家の物流拠点であった。その行政区域が「三田尻宰判」と呼ばれていたことから、私は、観光PRとして「毛利家三田尻宰判代官」を名乗らせてもらっているが、広大な地域を治められていた毛利氏の偉大さをひしひしと感じている。

陸上交通の要衝 宮市

て九州と近畿を結んだ旧山陽道が東西に、萩藩主が参勤交代で通行する御成道として整備された萩往還が南北にと、歴史上重要な役割を果たした2本の街道が走り、交わっている。2本の街道は防府の各地にまちを形作り、特に街道の要衝となる宮市、三田尻両地区は市街地形成の核となった。

宮市は、大宰府配流の途中、防府に立ち寄ったとされる菅原道真を祭った防府天満宮の門前町として栄えたまちで、2本の街道が東西約800mの区間で重なるため、陸上交通の要衝となった。人や荷物が行き交う宮市は宿場町として発展し、沿道は数多くの商店が立ち並ぶ商業の中心地としても



すごいぞ! 防府



電線地中化・カラー舗装がなされた宮市町

栄えた。現在では、随所に残る往時の面影を生かすべく、電線地中化や道路のカラー舗装などで景観に配慮した整備を行い、歴史的建造物を活用した店舗も登場している。

また、まちの駅「うめてらす」や、防府出身の俳人種田山頭火を顕彰する「山頭火ふるさと館」は一年を通じて県内外からの観光客を集めており、宮市のにぎわいを創出している。

陸上交通と 海上交通の結節点 三田尻と英雲荘

萩往還の終点となる三田尻御茶屋がある三田尻の地は、港を有することで交通や流通の要衝として栄え、街道と港、陸上交通と海上交通との結節点でもあった。

三田尻御茶屋は、萩藩主とその家族の滞在、賓客の応接に使用された藩の公館である。明治以降は毛利家の邸宅となり、県内の御茶

屋として唯一建物が残存した。昭和14年に建物と敷地が毛利家から本市に寄付され「英雲荘」と命名された。その後は市の公民館的な施設として学習会や結婚式、イベントなどの機会でも多くの市民に利用された。平成元年には萩往還の関連遺跡として国の史跡に指定されており、平成8年から23年まで建物の保存修理工事を実施し、嘉永かえい4年の大改修を基本として、江戸・明治・大正と建築年代に応じた姿に復元した上で一般公開した。

また、平成23年からは、池の修復など庭園整備を行い、この8月に全てが完成し往時の姿を取り戻した。去る9月21日の中秋の名月



英雲荘 庭園からのぞむ大観楼

にはオンライン観月会を開催し、庭園のライトアップをはじめ、雅楽や笛などの演奏の様子を配信し、時代を超越した雰囲気をもくの方に味わっていただくことができた。

本市は、主要幹線道沿いのまちを核として形成され、発展を遂げてきた。そして、今後まちづくりを進める中で、街道は欠かすことができない役割を果たしていく

と考えている。

私は旅好きで、子どもの頃から日本全国を旅しており、全国47都道府県全てを2回以上訪れている。特に平泉は大好きで5回は訪れている。各地の素晴らしい歴史や文化を見聞するたび、改めて、生まれ育った防府の素晴らしさを再発見している。これからも、時間と体力の許す限り日本百街道を歩き、歴史と触れ合っていきたい。

一口メモ

山陽道・萩往還が交わる 水陸交通の要衝「防府」



古代、都と大宰府を結んだ「大路」山陽道は周防に駅家が置かれ、駅家は外国の賓客を迎えるため瓦ぶき白壁に整えられていたと伝わる。

江戸時代、日本海側の萩に移封された毛利氏は、萩を中心として、瀬戸内をはじめ領国内の各地方に延びる街道整備に努めた。

「萩往還」は、幹線道路として萩と三田尻とをほぼ一直線に約13里（約50km）で結び、参勤交代の御成道として、また三田尻経由で大坂へ向かう道として最も利用された。

企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」